早稲田大学社会科学部
学部生・卒業生・教職員を繋ぐ
Communication Magazine

社学稲門会

WEB発行第2号

題字：第3代学部長・故木村時夫名誉教授

No.17

「社学二水会」会報
通巻17号

連載企画『がんばれ！同窓生』第１回
出来ない理由を探すより、出来る方法を探すこと！／メルセデス・ベンツ日本㈱代表取締役社長・上野金太郎 …… 2

特　集　紆余曲折
私が社学卒業後、精神科医となるまで／井戸　大介 …… 6
学生時代から臨床心理士になった今まで／小西　健 …… 8
ベトナムでの20年ー次世代へのバトンタッチを／斉藤　雄久 … 10

合同クラス会
第20回社会科学部合同クラス会報告 …… 12
稲門会デビューのきっかけに…／鈴木　輝夫

奨学生寄稿
お菓子づくりで人々に幸せを…／中山　光流 …… 14
学生時代の経験が将来の道に繋がる／冨田　到 …… 16

奨学基金
社会科学部卒業生奨学基金報告の詳細 …… 18

ゼミリレー⑯　辻　義昌 ゼミ
学際連携の先駆け―辻先生に学んだこと／小林 俊哉 …… 20

「稲門会」報告
平成26年度「社会科学部稲門会」スケジュール予定表 …… 24
第21回社会科学部合同クラス会の案内 …… 25
社会科学部稲門会「シャガールの会」報告記 …… 26
「奨学基金委員会」だより …… 27
第２回社学稲門会総会レポート …… 28
懇親会インタビュー …… 29
社学インフォメーション …… 30
プロフィール …… 31
編集後記 …… 32

連載企画★『がんばれ！同窓生』第１回

メルセデス・ベンツ日本株式会社　代表取締役社長兼CEO

上野金太郎さん

出来ない理由を探すより、出来る方法を探すこと！

社会科学部は 2016 年に学部創設 50 周年を迎えます。これまでにすでに 3 万有余の卒業生を世に送り出しています。社会の壁と悪戦苦闘を繰り広げた勇者たち、荒波をものともせずに乗り越えていった若者たち、そして今でも先頭を走り続ける仲間たち。今回の企画『がんばれ！同窓生』では、各界でご活躍、ご奮闘されている同窓生から直接お話しを伺い、多くの同胞、特に若者たちに向けてメッセージをいただきます。

第 1 回はメルセデス・ベンツ日本株式会社　代表取締役社長兼 CEO の上野金太郎さんからお話を伺いました。上野さんは、早稲田実業を経て、1987 年（昭和 62 年）に早稲田大学社会科学部を卒業されました。六本木のミッドタウンにほど近いブランド情報発信拠点で、学生時代の思い出や仕事にかける想いなどをお伺いしました。

（文責：伏見英敏）

●乗用車営業部からスタート！

阿川　功　今日は、上野さんの学生時代のお話や、就職されてから今日までのお話などをお聞きしたいと思います。

上野金太郎　学生時代は、学校周辺には良く行ったのですが、教室にたどり着く前に悪友につかまっていたものですから、ご期待に添えるかどうか……（笑）。

昨年、20 数年振りに早稲田に行き、校友会の方にキャンパスを案内していただく機会がありましたが、立派なビルが立ち並んでいて驚きました。

阿川　早稲田の風景もずいぶん変わりましたね。

上野　私は 87 年（昭和 62 年）の卒業ですが、会社は前の年に設立されたばかりで 30 名くらいの規模でした。

初めの 10 年くらいは、本当にバタバタな状態で、会社の規模も急激に大きくなって、社員数も 10 倍、15 倍と増えていきました。クライスラーとの合併や解消などもあって、プライベートな時間があまりなくて、会社中心に生活がまわっていました。

阿川　メルセデス・ベンツ日本が設立されてからは、輸入はすべて御社ですか。

上野　そうですね。86 年に輸入権を獲得して、正式に色々と始まったのが 87 年でしたので、私が入社して間もないころです。

インフラもまだ整ってない状態で始まって、最初に配属されたのは乗用車営業部というところでした。発注から輸入、通関、卸売、車の部品など一連の仕事は全部にかかわってました。仕事の原型は変わってないので、会社の動きは理解できていると思います。

阿川　受注販売のようなものが今でもあるんですか。

上野　日本ではほとんどのオプションが付いていますので、在庫販売が基本ですね。ただ、今でも稀に受注販売があります。まさにこの部屋に AMG と看板が掛けてありますが、これがメルセデス・ベンツの中でカスタマイズもできるハイパフォーマンスなモデルです。エンジニアが独立してレースに出たことがきっかけとなって、このブランドを育てていって、扉が屋根の上まで上がるものとかスポーティな車を作ってきたのですね。日本ではどういうわけか「アーマーゲー」と呼ばれて親しまれてますね（笑）。

●アメリカンスクールから早実へ

阿川　大学時代はどんなことを中心にされていたんですか。

上野　小中とアメリカンスクールに通っていまして、中学生の頃にレーシングカートに熱中し、レースにも出ていたんです。ある方の助言もあって中学３年の時に日本の学校に転校したんですが、モータースポーツにはかかわっていきたいなとずっと思っていました。高校に入ってからもオートバイや車の免許はいち早く取得して……。

そういうバックグラウンドがあったので、高校・大学時代は、クルマの雑誌の編集とかクルマ関連の業界でアルバイトをしていました。一応大学にも顔を出していて、試験を受けてレポートもちゃんと出してなんとか４年で卒業できましたよ（笑）。私にとっては、社学はとても理想的で、当時極端に朝早い授業もなかったし、バランスのとれた時間帯に授業が受けられたという感じがします。

阿川　アメリカンスクールに入られたきっかけは。

上野　外資系企業から独立して事業をしていた父が仕事上で一番苦労したのが言葉だと感じていたからだったと思います。

阿川　ではメルセデス・ベンツ日本に入社されても言葉ではあまりご苦労されなかったんではないですか。

上野　そうですね……でも基礎はできていたんでしょうけれど、中学生までの英語とビジネス英語では結構ギャップはありましたね。

阿川　大学時代はゼミは取ってましたか。

上野　古川先生のゼミに入ってました。ただ、先程も言いましたが、学校には良く顔を出していたのですが下から（早実）の悪友たちがこのくらいの時間には来るはずだと網を張って待っているもんですから、教室までなかなかたどり着けなかったですね。

●プロフィール
1964 年東京都生まれ、早稲田実業学校商業科、早稲田大学社会科学部卒業。1987 年大学卒業後、前年にダイムラー・ベンツ AG（当時）日本法人として設立されたメルセデス・ベンツ日本へ新卒採用１期生で入社。乗用車営業部、広報部、ドイツ本社勤務、企業広報部長、社長室室長、2003 年に取締役（商用車部門担当）就任、2005 年から販売店ネットワーク開発担当役員兼人事・総務ディレクター、2007 年６月１日に副社長（メルセデス・カーグループ営業／マーケティング部門担当）。2012 年 12 月１日付でメルセデス・ベンツ日本代表取締役社長兼 CEO 就任。

ゼミの授業で面白いなと思ったのは、日本経済、特に自動車産業の国内空洞化についてで、卒論でも書きました。

阿川　卒業の 87 年当時は、日本経済が沸いていた時期だと思いますが、産業の空洞化について予測されていた人は少ないんじゃないですか。

上野　予測というか、高校・大学とクルマの雑誌などに携わっていて、海外でそういう現象が起き始めていたのを見聞きしていましたから、これはもしかしたら日本でもと。

阿川　なるほど。学生時代にスポーツは何かやってたんですか。

上野　中学までは当時一番はやっていたバスケットボールを。高校に入ってからは、周囲のみんなが心配する通り、オートバイで足の骨を折ってしまって、それ以来本格的なスポーツはやってません。

逆に 20 数年間の沈黙を破って今、トライアスロンに挑戦しています。３～４年前まで今より 12～３キロ太っていたんですが、おかげさまで健康診断の結果も全て良くなってきていいことづくめですね。

阿川　87 年卒業ですともうすぐ 50 代ですね。

上野　今年 50 歳です。海外出張が今でも年間 14～5

回、国内も合わせると１年の半分以上家にいなくて全部外食なので健康管理しようと心がけています。

●若い人にはいろいろな経験を

阿川　今、御社に入ってくる若い人はどんな人が多いですか。

上野　弊社では例年、新卒の学生を４～８名ほど採用しているんですが、内定が出てから入社までの間の心がけみたいなものはないかと聞かれるんですね。あんまり勉強していなかった私が言うのも変ですが、何しろ大学にいるうちは勉強しなさいよと（笑）。外国人の感覚では大学の時に何を学んだのかというのが一番先に飛んでくる質問です。『私は社会科学』と言ったらなんでこの会社で働いているんだと言われました。日本の場合は、その辺が少し外国とは違うと思いますが。

弊社の場合、新卒入社の人は、会社に対するロイヤルティが高いと思います。１年に一桁しか採用しないので、結構狭き門なのかもしれませんが、皆、語学が達者で、とても元気で礼儀正しいです。弊社の若い人たちは、就職難の時代を戦いぬいてきているので、世の中が悪いとかボヤク人もいないですし、意見もはっきり言いますね。

阿川　素晴らしい人材ですね。しかし今までなかったような現場に出くわした時にちゃんと乗り超えられる野性味のようなものはどうですか。

上野　そうですね、実はそれを私は一番懸念していて、あえてそういう状況を作らせようと考えています。ですから新卒入社の人たちは､2～3年で部署がえします。私自身が次から次へといろいろな部署を経験させられましたクチなので、自分が今何をやっているのかということを体感させ、苦しいことも悲しい思いもしながらやっていく状況が待っているということをちゃんと認識してほしいと思っています。

たとえばここは、車の試乗は出来ますが、車を売らないショールームなんです。そこでレストランやカフェの経営や、人の流れなども覚えてもらう。これを技術系の社員にいきなりやらせてみることもあります。『音をあげてもいいから、出来ることをやってみろ』というふうに立ち上げたのですが、見事に成功したので２店舗目３店舗目も立ち上げました。

でもその社員は、ここから引きあげて、今度は全国の営業関連を担当しています。せっかくここまでやったのに何故と思ったかもしれませんが、会社を色々な角度から見てほしいと思っています。そういうチャレンジを見て周りの人間が「俺もやらなきゃ」というふうに手を挙げる人たちが出てきます。私たちもチャレンジャーには成功してほしいので、色々と檄も飛ばしますが、しっかりサポートしていきます。

阿川　厳しいやり方で、若い人は残りますか。

上野　最近は残りますね。今のマネージャーの半数以上が新卒採用の人材です。そういう人たちが後輩に色々と伝えていってくれていると思います。また逆にマネージャーレベルでも次の世代がすごい勢いで伸びてきているので、オタオタしていられないという雰囲気はあります。

阿川　プロパーで社長になられたのは、上野さんが初めてですか。

上野　そうなんです。たまたま前任社長が中国法人に異動になる際に私を後任に推してくれたのです。車の販売の営業成績も認められたとは思いますが、まだ２年もたってないので、私自身が今、歯を食いしばって頑張らなければと感じているところです。

●レトロと最先端のバランスに注力

阿川　若くして社長になられたわけですが、これからどんな構想をお持ちですか。

上野　私は、メルセデス・ベンツというブランドは、結構知れ渡っていると勝手に思っていますが、その中で今までどおりのことをやっていては飽きられてしまう。とは言え、今までのお客様にもいかに末永くファンでいてもらうかということも同時に考えていかなくちゃいけない。輸入卸元の会社なのですがマーケティングの会社でもあり、最近も新しい車とスーパーマリオをリンクさせてマーケティングしました。お時間があればネット検索してご覧になって見て下さい（コンパクト SUV『新型 GLA クラス』と往年の人気ゲーム『ス

ーパーマリオブラザーズ』とのコラボCMが見られます)。

変わらないレトロなものと常に最先端でいかなくちゃいけないもののバランスを私たちなりに考えてやっています。また『メルセデス・ベンツ　最も愛されるブランドへ』というカンパニービジョンを掲げているのですが、お客様に勧めるためにはまず、社員のみんなにこのブランドを好きになってもらいたいと思っています。

阿川　色々な部署をご経験されたということですが、私の知り合いの上場企業の会長も、若いころはほぼ1年ごとに部署が変えられて、ほとんどの現場を見たと言ってます。

上野　私は、いろんな経験を積む機会と人に恵まれてきたと言えます。社長室長の時代に突然、商用車の部門に変えられたこともありました。非常に厳しいビジネス環境の中で必死に建て直しに駆け回りました。

国産4強にはなかなかかなわない。それでも当初年間200台くらいだった販売台数を500台、700台と上げてきて、さあこれからだなと言う頃に今度は商用車部門の切り離しがあるわけです。まだ30代でしたがビジネスパートナーの社長さんのところや今までのお客様のところに説明に駆け回ったり、大変な思いもしました。その時に虚勢を張る必要もないですがひるんでいてはダメだなと思いました。

阿川　そういう経験や出会いを重ねた上野さんの経営哲学とは。

上野　端的に言うと『出来ない理由を探すより、出来る方法を探すこと』ではないでしょうか。確かにそうだよなと納得させられるエクスキューズもあるんですが、そんなことに時間を費やすより、売れる方法を考えようということです。

うちの社員にも良く言うんですが『権利を主張する前に義務を果たせ』と。しかし最近は『権利を与えたほうがより義務も果たす』という感じもします。私はあまり義務を果たしてなかったんですが、いろんなことを経験させてもらったというのは、これまでの社長たちのおかげですし、それにこたえなくちゃと思ってやっぱり努力したんだと思います。

奨学金の活動も有為な若者にチャンスを与えるというのが大事なことだと思いますが、今の私にとって弊社の若い人たちにチャンスを与えることが大きな役割

だと思っています。

●遠慮せず自分の意見を披瀝してほしい

阿川　これまで早稲田で良かったなと思うことはありますか。

上野　たまたまかもしれませんが、早稲田出身の人は会う人会う人とてもザックバランな方が多くて、人当たりが良いけどベタベタしない良さがありますね。私は早稲田実業OBとも長い付き合いがあって、とても楽しい関係を続けてますが、遊びと仕事はみんなきちんと分けてますね。

それから先日、他学部の先生とお話をする機会があったのですが、早実にお世話になっている家の二人の息子の話になったんです。その時『是非、うちの学部に来てください。でも最近は社学の方が人気ありますよねぇ……』とおっしゃってました。実際に今の社学の学生が優秀になってきたというのは誇らしいですね。

私らの時は、なんとかしてしがみついてでも早稲田に入りたいという人間が多かったし、とてもおおらかな学部でしたよね。そのおおらかさで卒業させてもらったんですが……（笑）。

阿川　これからの学生さんはグローバルな社会に巣立っていく必要が出てくると思いますが、それこそ外資系企業の社長を務められている上野さんから社学の学生に贈るメッセージをお願いします。

上野　私も自分の人生の中で反省していることの一つなんですが、変な遠慮はしちゃいけないと思います。常識的なことはともかくとして、つまらない遠慮はするべきではなく、ちゃんとした理由をもって自分のしたいことを伝えるというのは大切なことだと思います。微妙ではありますが勘違いでは困りますが、自分の立脚点が理解できていれば遠慮せずに意見を言って頑張ってほしいと思います。

特集 紆余曲折 人生いろいろ…社学もさまざま

私が社学卒業後、精神科医となるまで

井戸　大介（平成 11 年卒）

順天堂大学入局後、医局にて

●私が社学に入学するまで

皆様初めまして。平成 11 年（1999 年卒）の井戸大介と申します。早稲田大学の HP で

社学稲門会の存在を知り、入会させていただきました。私は現在精神科医をしておりますが、社学入学から精神科医になるまでの経緯を書かせていただきたいと思います。

まずは自己紹介からさせていただきます。私は三重県伊勢市に 5 人兄弟の末っ子として生まれました。父は医師をしており、母親の実家も医師であったため、医師という職業は身近に感じていました。そのため、幼いころから将来は漠然と医者になりたいなと思っていました。

しかし、理科や数学が苦手で、高校時代の成績は医学部志望と口にするのも恥ずかしいものでした。そのため文転することにして、高 3 の終わりに早稲田を記念受験しました。

試験が終わって帰路に就こうとしたとき、ふと大隈講堂を見たのですが、夕陽に照らされた大隈講堂の美しさに魅了されました。そのときから、「絶対早稲田に入学する」と心に決めました。

最初は、早稲田に入学できるならどの学部でもと考えていたのですが、調べていると社学は、法学・商学・政治学・経済学など幅広い分野を学べることができるということを知り、社学に入りたいと思いました。そして浪人しての受験で、社学に合格することができました。

●社学入学後～語学クラス、サークルでの出会い

入学後に、第一外国語の選択がありました。ほとんどの人は英語を選択するのですが、私はせっかく早稲田に入ったのだから違う語学を勉強したいと思い、フランス語を選択しました。

いざ、最初の授業のために教室に行くとクラスメートは 10 人弱。英語のクラスは 1 クラス約 50 人でしたから、きわめて少人数でした。でもそのおかげで、クラスメートとすぐに仲良くなり、よく飲みに行ったりしていました。結局フランス語は身につきませんでしたが、クラスの友人との出会いは私にとって大きな宝となりました。

サークルは、1 年のときはいろんなサークルに入りましたが、どこもなじめずすぐ辞めてしまっていました。2 年になり、ふとサークル情報誌の「マイルストーンエクスプレス」を買ったのですが、それを発行しているマイルストーン編集会（以下マイル）のところに、「2 年生以上も歓迎」と書いてあったので、話だけでも聞いてみようと思ってマイルのラウンジに行きました。そうして、何度かラウンドに行ってるうちに、入会しました。

マイルの先輩方は 2 年から入ったにもかかわらず優しくしてくださり、飲み会、野球の早慶戦、ラグビー早明戦観戦などに連れて行っていただき、楽しい学生生活をおくることができました。

●社学卒業後～医学部再受験まで

大学 4 年になり、私も就職活動を行いました。でも、

社学卒業式にて、大西ゼミの同期と（中列左端が筆者）

金沢医科大学時代、部活の演奏会で

とくに働きたい業種などもなかったために、今から思うといいかげんな就職活動でした。そのため、受けても受けても不採用の連続で、結局１社だけ受かった大阪のコンピューター会社に就職しました。

入社当初は頑張ろうと思っていましたが､次第に「この仕事を一生続けていくのか？」という気持ちが芽生えました。そして、一度はあきらめた医師になりたいという想いが次第に強くなっていきました。そして悩んだ末に、医学部入学を目指すために会社を退職して２度目の受験生活に入りました。

●医学部入学後

約１年半の受験勉強の後、石川県にある金沢医科大学医学部に２学年から編入学しました。医学部の勉強は想像以上に大変で、一つでも単位を落としたら即留年、２年連続留年したら退学という厳しいものでした。

私は入学当初勉強になかなかついていけなくて、テストを受けても追試の連続でした。勉強しても結果が出ない辛さと留年へのプレッシャーで精神的に参ってしまい、吐気が止まらないことがありました。そのため、机の横にバケツを置いて、吐きながら勉強していたほどでした。

そんな生活の中で､唯一の楽しみは部活でした。「クラシック音楽同好会」という部に在籍しました。当初はコーラスを主にやっていたのですが、何か楽器を演奏したいと思うようになり、アルトサックスを始めました。勉強の合間を縫って練習し、学園祭や演奏会で曲を披露したのは良い思い出です。

結局私は８年かかって何とか卒業した後に医師国家試験に合格し、医師となりました。

●なぜ精神科医になったか

医師国家試験合格後は、金沢医科大学病院にて初期臨床研修を行った後、順天堂大学精神医学教室に入局しました。

精神科医になろうと決めたきっかけは、私は小学校～高校といじめにあい、精神的につらい時期がありました。また、前述のとおり、医学部時代は勉強のストレスから、心身の調子を崩した時もありました。そのようなつらい経験をした人間だからこそできる、心を病んだ方に対する精神医療があるのではないかと思ったからです。

私はまだ精神科医としては未熟ですが、患者様一人一人に誠実に向き合い、自らが目指す精神医療にむけて精進してまいりたいと思います。

●社学で学んだことの意義

社学の教育の特徴は「学際化」です。社会科学のみならず、人文科学や自然科学など様々な領域について学ぶことができます。それによって知識のみならず、物事に対して幅広く柔軟な考え方が身に付きます。

私も日々の臨床において、様々な症状や背景を持った患者さんに接しています。その際、自分の考えだけではなく患者様のお話をじっくりと聞いて患者様が発症するようになった経緯を理解し、最も良い治療法は何かを考えるようにしています。

私がこのように、患者様の立場をできるだけ考えようとする診療が行えるのも、社学での教育によるものだと思います。

これからは、私を育ててくれた社学のために微力ながら貢献させていただきたいと考えております。どうぞ、よろしくお願いします。

特集 紆余曲折 人生いろいろ…社学もさまざま

社会科学部での学生時代から臨床心理士になった今まで

小西　健（平成 11 年卒）

●社学入学から卒後に臨床心理学を学ぶまで

社学稲門会会報への寄稿をご依頼いただいたこの機会に、大学時代の自分を振り返りつつ、今の仕事についてお話させていただきたく存じます。

入学したころは報道機関に勤めるのを目標にしていました。早稲田を選んだのもその目標があるからでしたが、いざ入学してみるとバンドサークルに入って下手なギターと酒の毎日で、入学当初の目標なんてすっかり忘れてしまいました。

今の仕事を選んだのは、ハッキリとは思い出せないのですが、田村先生の社会科学方法論の授業だったか、片野先生の産業心理学の授業であったかで、フロイトやエーリッヒ・フロムの話を拝聴することが出来て精神分析学に興味を持ったのがキッカケだったようです。

フロムの「自由からの闘争」「愛するということ」などを読み、フロイトに触れ、学術的な興味が先行した形で大学院に進みました。実際に臨床の研修が始まると人を相手にする仕事の楽しさや手応えを感じて今に至ります。

怠惰な学生だった自分にも刺激を与えていただいた社学の先生方には感謝しなければなりません。今の自分には他大学で心理学の一般教養を講師として教える曜日もあります。学生さんには少しでも興味の幅を広げてほしいし、その刺激を与えたいというのが一番の願いです。

社会科学部卒業後に横浜国立大の修士課程で臨床心理学を学び、教育相談所や精神科クリニック、大学病院の精神科医局などに勤めて臨床心理士としての経験を積み、今現在は心理相談室を開いて、うつ病やパニック障害と診断された方から家族関係の問題を解決したい方まで、幅広い方々の悩みを聴く毎日を過ごしています。

当初は報道関係というマスに向けた仕事がしたかったのに、一人の話を集中して聴く仕事をしているわけですから、不思議と言えば不思議です。

九州で斜陽の炭鉱町の少年だった私は将来のことは何も考えず、友達と遊んでばかりでぼんやり過ごしていました。小学校６年生のときには「小学校を卒業すると成績のよい同級生は高校に行って、自分のような成績の悪い子どもは中学に行くのだ」と思い込んでいたようです。

今の自分が昔の自分をみたらちょっと心配になるに違いありません。今それなりに生活しているのが不思議でなりません。

●臨床心理士という仕事

私が基礎としている技法・学派は精神分析です。ですので、来られている方に自由に連想してもらいながら、私はたまに解釈するという構図になります。もしも第三者がその場で様子を見たならば、ちょっと不思議な光景かもしれません。映画に出るような寝椅子に座った人の頭の後ろで私が頷いたり、たまに喋るとい

大学１年、バンドサークル当時

った光景です。

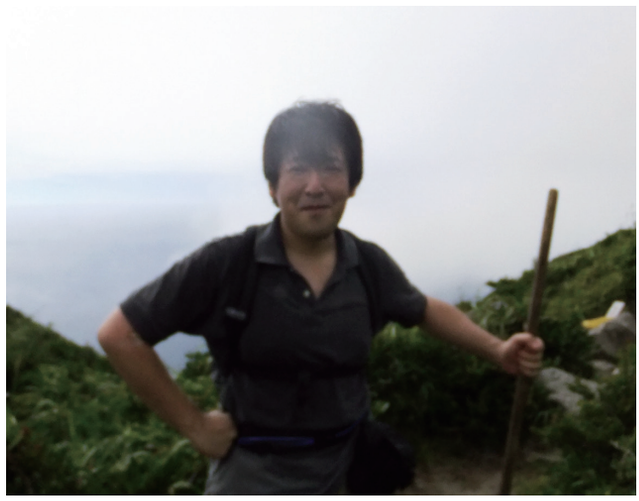
近年は症状への対処方法をはっきりと教示・訓練するような認知療法といった方法がマスコミでも取り上げられています。それらのようなわかりやすさがない方法です。

精神分析を少しでもご存知なら、心理的な症状や夢についての本人の連想を元に、精神分析家が深層心理を解釈して無意識の葛藤を意識に上らせることで解決するものだというイメージは持たれていることでしょう。それこそ映画的な場面をイメージされるのではないでしょうか。

そういった場面があるにはあるのですが、それは比較的長い治療期間からすれば珍しい場面です。多くの時間はほとんど来室されている方のモノローグで占められます。しばらく話を聴いていれば、それなりに相手の話の深い意味が理解できてきます。

さすがにキャリアも積んで来ましたし、それなりに心理療法家としての力もつけてきた自負もありますので、相手を感心させるようなことを言うこともできます。ですが、「深層心理をピタリと当ててしんぜよう」式の解釈は、それほど役に立つものではないのです。本人が自由に考え、気持ちを言葉にしていくことで、自分自身で気づくことのほうが大事なのです。

また、話された言葉や表面的な態度から理解すれば良いのであれば仔細に観察すれば事足ります。来られた方と私との関係の中で、言葉にならずに繰り返されていることを理解する必要があります。専門用語ではこれを「転移」といい、過去の人間関係において繰り返されていた問題のある対人関係のパターンです。



筆者近景

ある程度、私も巻き込まれなければ治療の場面で再現されません。専門家である私が何か最初から答えを知っているというより、来室された方との関係の中で両者にとって当初は理解できなかったものを理解していくのです。ですから、当初から何か良いことを私が教えられるわけでもありません。

人は自分が生きるために前提条件のようなものが必要だ、と無意識に思い込んでいるようです。こういった治療の中で「今までと違うように生きられる、生きてよいのだ」と思えるようになります。

こう書いてみてもよく分からない感じが残ることでしょう。心の病の治療ではあるのですが、情感や意欲の面では治療というより成熟を促す技法と思って頂いてもいいと思います。

●これから

世間的なことに目を向けると、心理的な問題・人生上の悩みや課題が過剰に医療の問題にすり替えられている傾向があります。

一般の方には精神科に通わなければならない状態と、心理的な問題を解決すればよい状態とを区別するのは難しいことでしょう。症状にばかりとらわれずに、その人の性格や環境と無意識的な葛藤などを勘案して判断しなければなりません。私は精神分析的な視点を用いて、このような判断をしています。

薬物療法中心の精神科クリニックが乱立する中、臨床心理士の相談室開業という形態で出来ることをアピールし、薬物療法によらずに、心理的な問題として解決できる方も多いことを周知していきたいと考えています。

特集 紆余曲折 人生いろいろ…社学もさまざま

ベトナムでの20年ー次世代へのバトンタッチを

斉藤　雄久（昭和60年卒）

●人々との出会いや偶然の重なりで…

私がベトナムの首都ハノイのノイバイ空港に降り立ったのは、1994年12月のことでした。早いもので、それから20年ほどの月日が流れました。

近年、ベトナムはビジネスでも注目を浴びていますので、「先見性がありますね」といったお褒めの言葉を頂く事もありますが、私としてはまったく汗顔の至りです。ベトナムに来たのは、私費での1～2年の語学留学のためであり、日本での再就職が目的でした。

日本経済について、“失われた20年”などと言われますが、当時の経験則では、不況といっても2～3年程度であり、バブル崩壊後の景気回復を待つための、一時的な避難だったのです。ベトナムに、このように長く滞在し起業する事など、当初は自分でも想像すらしませんでした。さまざまな人々との出会いや、偶然が重なった結果、現在に至ったと感じています。

●希望退職を好機に一念発起しベトナムへ

ベトナムに関心を持つようになったのも、まったくの偶然です。社会人になって3年ほどして、韓国、台湾を担当する事になり、初めてアジアに目を向ける事になりました。

社会科学部在学時代でも、南北問題の講義があった程度で、一般的にはアジアへの関心が低い時代でした。韓国、台湾に関する本を読むうちに、ビジネス上は無関係なベトナムの名前を思い出しました。子供の頃は毎日のようにニュースで、内戦の状況が報じられた国ですが、1980年代のバブル景気に沸く日本では、まったく忘れられた存在でした。

何故あれほど耳目を集めた国が、ニュースや人々の話題から完全に消えたのか？　このような疑問が、ベトナムに興味を持ったきっかけです。ベトナム関連の本を読み漁るうちに、産経新聞のサイゴン特派員であった近藤紘一氏やピューリッツアー賞カメラマンの沢田教一氏が遭遇した危険や困難を思えば、自分など比較にならぬ楽な仕事をしていると、自らを励ます事ができました。

こうしてベトナムへの興味が高まる中、1993年秋に勤務先が希望退職を募集したので、これを好機としてベトナムに行く事を決めました。なお、当時はインターネットなど普及していない時代で、留学先のハノイ外国語大学（現在のハノイ大学）とのファクスと郵便でのやり取りに、半年以上の時間がかかりました。日本人の入国に、まだビザが必要な時代でした。

●短波放送でニュース原稿を読んだり…

ベトナムでいくつかの職場を経験しましたが、ベトナムの機関、大学での仕事は、良い思い出でばかりです。1995年5月から1997年7月まで、国営ラジオ「ベトナムの声」の日本語科でお世話になりました。

日本向けの短波放送の番組のために、日本語のニュースの校正でしたが、当時ベトナム人の男性アナウンサーがいないことから、ベトナム人名を騙って？　ニュース原稿も読んでいました。午前中は勉強、午後はラジオ局といった当時を、今も懐かしく思い出します。

こんな形で一生暮らせればいいと考えた時期もあり

2014 年 5 月末の国営の BIDV 銀行での業務協力契約の調印式（右から 4 人目が筆者）

ましたが、当時のラジオ局からの給与は 200 万ベトナムドン（円換算で 2 万円ほど）で、ベトナム人の同僚と比較すれば高給でも、外国人が安定した生活をするには不十分でした。

また、1999 年 1 月から 2001 年 5 月まで、ハノイ貿易大学で日本語を教える機会もありました。その時代の学生たちとは、今でも交流があります。彼らも 30 代後半から半ばの立派な社会人ですが、思わぬ所で再会をする事もしばしばです。

●コンサルティング会社の代表として

現在の私の立場は、AIC Vietnam Co.,Ltd. というコンサルティング会社の代表です。同社を設立して 6 年になります。

事業内容では、法人や駐在員事務所の設立手続きからその後の経営管理（会計・税務・労務など）まで、一貫してお手伝いできる点を特長としています。社員数は日本人が私を含めて 4 名、ベトナム人がおよそ 70 名、本社をハノイ、支店を北部の港湾都市ハイフォン、中部最大の都市ダナンに置いています。

弊社はベトナムに進出する外国企業のインフラの一つとなることを願っており、リーズナブルな料金で親身な対応を心がけています。

外資企業のベトナム進出にあたって、法的な規制以上の課題は、いかに優秀で信頼できるベトナム人のパートナーを探せるかどうかでしょう。いくら優秀な外国人が来たとしても、自分では電話の設置契約一つでも締結が困難です。

私の場合には非常に幸いな事に、ベトナム人の仲間、当地に骨を埋める覚悟の日本人にも恵まれています。カーネギーの墓碑銘に、「自身よりも賢い者を周囲に置く方法を知っていた者ここに眠る」とあるのは有名ですが、永眠していない点を除いては、私も同じような思いです。

仲間たちが快く安心して働ける環境を築き、次世代にどうバトンタッチさせるかが今後の大きな課題です。

●外国人として滞在している謙虚さを

ベトナムでの仕事がうまくゆかず、行政や部下を批判する日本人は決して少なくありません。

そのお気持ちは理解できますが、占領軍や植民地支配者ではないのですから、まずはよそ者が滞在を許可されているといった謙虚さを、外国人として持つ事が必要だと考えます。

私のように日本で無用・無力だった者でも、多少とも当地の社会でお役に立てているのは、すべてベトナムに来た運の良さによるものと思っています。

第20回社会科学部合同クラス会報告

https://www.facebook.com/media/set/?set=a.750245838335462.1073741848.210741352285916&type=3

2013.10.20(日)合同クラス会撮影記録

数少ないOGたちも和やかに

現役チアとともに記念撮影

鈴木実行委員長（左から二人目）も記念撮影

締めはもちろん「校歌斉唱」、この至福の時を味わうために……

恒例の「記念撮影会」も盛況

速川治郎・名誉教授

照屋佳男・名誉教授

2012年度、奨学生の挨拶

稲門会デビューのきっかけとなった合同クラス会

鈴木 輝夫（昭和 54 年卒合同クラス会実行委員長）

●新しいコミュニティづくり

大学を卒業して 35 年経ちました。

60 歳が間近に迫り、会社を辞めた後どんな暮らし方をするのか、第二の人生を意識したとき新しいコミュニティの必要を感じていました。また、息子が幸運にも早大生となり久しぶりに早稲田を訪れたとき、若き日の思い出が甦り物凄く懐かしい気持ちになり、また来たいと思いました。

そんな頃、社学稲門会から合同クラス会幹事募集の案内が届いたのです。新しいコミュニティづくりと早稲田に行く機会という点では、申し分の無い内容であり心がときめきました。しかし、同時に応募することにためらう気持ちもありました。

学生時代に射撃部に所属していた私は、選手としての能力はいまひとつで、早々と学連委員や 4 年生では主務（マネージャー）として活動していました。射撃部には稲門射撃倶楽部という組織があり、卒業生は自動的にその会員になります。

学生のときこの OB（稲門）会の担当が私の役目であり、元来神経が細く気の小さい私にとっては、苦手でストレスのたまる役目でした。卒業後、私もこの稲門会の会員になっておりますが、学生時代のトラウマのせいなのか、敷居が高くて今まで会合には 1 度しか出席していません。

社学稲門会について、大袈裟に言えば厳格な上下関係や新参者に対する冷ややかな扱いがあるのではとの危惧がありました。しかし、自分の今後の人生を充実したものにする可能性があるのではと思い、迷った末に応募の葉書を投函しました。

●合同クラス会実行委員長の役を

その後、社学稲門会から連絡がいつ来るかと待っておりましたが、中々反応がありません。葉書が届いていないのか、あるいは応募者多数で選考から外れたのかと思いあきらめていた約 2 ヵ月後、電話があり定例会に出席のお誘いがありました。

昨年の 4 月、定例会に恐る恐る出席させていただきました。実際に会員の方々にお会いしてみると、和やかな雰囲気のもと気さくに応対していただき、抱いていた不安は杞憂であったことがわかりました。この後の定例会にも引き続き出席して、会員の方々と楽しくお酒を酌み交わし、第 1 回社学稲門会総会の手伝いやその他の行事にも参加させてもらい、心のうちではセカンドライフの一端を感じていました。

社学稲門会をエンジョイしていた昨年の夏頃、突然私に 10 月に行われる合同クラス会実行委員長の役をお願いしたいとの話がありました。合同クラス会の対象年次で年長の 1979 年卒は少なく、それぞれ役職に就いているため、羽を伸ばしている私が指名されました。ご指名を受けたものの、今まで合同クラス会に初参加で他にこの手の役職を経験したことが無く、また社学稲門会に入会間もない私は何をすればいいのか見当もつかない不安な状態でいました。

しかし、ここからが社学稲門会の凄いところ。各メンバーが各々の役割分担に従い、具体的にプランを練り上げそれに必要な手配をしてくれて、私の役割は実行委員長としての挨拶を行うことぐらいでした。でも、とても良い想い出になりました。

●初めの一歩は少し気が引けるでしょうが…

ホームカミングデーおよび合同クラス会の当日は、大降りの雨模様で屋外行事は影響を受けましたが、クラス会の会場には大勢の人が集まり、OG の方々も結構ご出席くださったので華やいだ雰囲気の中行われました。ご出席の方々が社会科学部の現状や将来について、また想い出話に花が咲きホームカミングデーに相応しいクラス会になったと思っております。

私はクラス会終了後も引き続き、社学稲門会の会合に出席させていただいております。社学稲門会は、社会科学部卒業生（関係者含む）が、教職員の方々や現役の学生諸君と親しく交流しています。

「楽しく」をモットーに三位一体となり、奨学金の募金活動および給付、女子会や写真クラブなどの分科会、飲み会まで幅広い活動を行い、極めて活発に運営されています。

社会科学部の卒業生の皆様、また学生諸君も是非社学稲門会に参加してみてください。初めの一歩は少し気が引けるかもしれませんが、この様な集まりは他には中々ないと思います。世界で一番唄われている校歌「都の西北」をみんなで楽しく唄いましょう。

奨学生紹介

中山　光流

３年生 / 私立豊島学院高等学校

お菓子づくりで人々に幸せを…

●自己紹介とご挨拶

はじめまして。私は社会科学部３年生の中山光流と申します。この度、社会科学部卒業生稲門会奨学生に選んでいただきましたこと､深く御礼を申し上げます。

昨年、私は父を亡くしてしまい、そのことが原因で家計も急変してしまいました。大学へ通うことも非常に困難となっておりましたが、皆様から奨学金という形でご支援いただきましたことで、どうにか今年もこの早稲田大学で学ぶことが可能となりました。重ね重ね感謝を申し上げます。

私の出身は埼玉県川口市で、高校は私立豊島学院高等学校に通っておりました。私が選んだのは、この早稲田大学という学舎において、情熱のある個性豊かな学生と有機的に交流することで様々な価値観と出会い、自身に大きな刺激と成長をもたらすであろうと考えたからです。

それは、入学してから現実となり、早稲田大学という一つのコミュニティの中で、たくさんの「出会い」に恵まれ、授業やサークル活動、切磋琢磨していける友人とのつながりを通して､日々充実した大学生活(キャンパスライフ）を送っております。

上記のような恵まれた環境において、自らの専攻したい学問を学べることはこの上ない喜びであり、日々の活力へとつながっております。

●将来の夢について

私は将来、製菓会社に就き、自身が企画したお菓子で人々を幸せにすることを夢見ております。私がその考えに至ったきっかけは、私自身お菓子を選んで食べることが好きであったことに加え、お菓子が家族との思い出をたくさん作ってくれたということによるものでした。

幼いころ、両親が私へのご褒美としてよく「たけのこの里」を買ってきてくれました。ご褒美として食べる「たけのこの里」は格別で、その味は今でもよく覚えています。お店でこのお菓子を見かけるたびに、両親の自分への愛情が思い出され、思わず手に取り、購入してしまうことが多々あります。

私はこうした体験から、お菓子とは、その場の感動を生み出すだけではなく、人々にかけがえのない思い出までをも与え得る存在であると考えております。私は両親が自身にしてくれたことを自分の子供にもしてあげたいと思うと同時に、世界中の人々にもこのようなお菓子との出会いによる恩恵を提供したく、製菓会社に勤めたいと思ったのです。

ただし、こうした「人々にかけがえのない思い出を与える」お菓子を創るためには、私自身ももっと多くの経験や知識、技術を学んでいく必要があり、また、実際にどのようにしてお菓子の企画が行われているかを知らなければなりません。

夢の実現にはまだまだ遠く、始まってすらいませんが､明治製菓の「たけのこの里」」のように多くの人々に愛され続け、記憶に残り続けるようなお菓子を世に出すことを目指して、日々努力を続けていきたいと思います。

●まっちワークグループ早稲田での活動を通して

サークルは「まっちワークグループ早稲田」に所属し、副幹事長を務めています。活動内容は「街と学生との繋がりを作る」という共通理念のもと、早稲田大学周辺の商店街が主催するイベントに参加したり、私たち独自で企画したイベントの実施をしたりしております。活動の性質上、商店街の方々と顔見知りになったり、近い活動を行っている他団体と交流したりする

「まっちワークグループ早稲田」のメンバーと

ことが多く、サークルの人とだけでなく、様々な人と知り合うことが出来ました。

私が深く関わった企画は、大学近くにあります「宝泉寺」というお寺で開催させていただいた「Waseda Swapmeet」というフリーマーケット形式のイベントです。学生団体や地域のお店に出店していただき、また、イベントを盛り上げるパフォーマンス団体を学生から募ることで、学生や地域の方々を主とした来場者と出店者の交流の場を創り出し、街と学生の繋がりを実現しようというコンセプトのもと実施しました。

様々な困難はあったもののどうにかして形にすることができ、お寺の住職さんからも、今後も継続して行ってほしいと言っていただけました。このイベントは私にとって、企画をするうえで、アイデアを発想するだけではなくそれを形にすることの大切さと、責任感を身を持って学ぶことができる良い機会となりました。別の場でもこの経験を生かし、活躍できるよう取り組んでいきたいと思います。

●奨学生として

父が亡くなり、一度は大学で学ぶことを諦めた私が、今もこの早稲田大学で、学問・サークル活動に打ち込むことができているのは、社会科学部卒業生稲門会の

宝泉寺ではフリーマーケットを開催

皆様によるご厚志である奨学金のお蔭でございます。

社会の第一線でご活躍する方が多いこの早稲田大学であるからこそ、このような充実した奨学金制度が可能となっており、私は心からこの大学にこれてよかったと感じております。私以外にも、私に似た境遇にいる学生がたくさんいるはずであり、そうした学生たちのためにも、この奨学金の輪が今後も広がっていくことを願っております。

また、それにあたって、私自身も、こうして私を支えてくださっている皆様への御恩と感謝を忘れず、稲門会奨学金を受けたものとして恥ずかしくないよう、一層精進していき、いつか自分自身も支える立場となれるよう努めて参りたいと思います。

最後に、この度ご支援くださった方々に、改めて心より感謝の言葉を申し上げたいと思います。誠にありがとうございました。

「社会科学部稲門会」入会のご案内

社学稲門会では入会受付を常時行っております。
社学稲門会ホームページの会員入会受付フォームにて入会手続きをお願い申し上げます。
個人情報は厳正に管理いたします。

奨学生紹介

冨田　到
2年生 / 都立東高等学校

学生時代の経験が将来の道に繋がる

●多賀ゼミの平和学を履修

この度は、社会科学部卒業生奨学金にご選考、給付していただき、誠にありがとうございました。私、社会科学部２年の冨田到と申します。

私自身の家庭が母子家庭であるので経済的にも苦しい中、皆様のご厚意に支えられて、大学生活を楽しませて頂いています。社会科学部卒業生奨学金に関わる全ての皆様に、改めてここで感謝の意を述べたいと思います。

さて、皆様に支えられた私の大学生活も２年生を迎え、サークル活動などにも慣れ、ゼミナールの履修や、社会科学部の理念であるより幅広く、学際性を持つ学生であるため、いろいろな授業も学んでいる日々であります。

ゼミナールでは、多賀先生の平和学ゼミを履修しており、最近では、先輩方とともにアフリカやアジアやヨーロッパやアメリカなどを題材とし、グローバル化時代における国際秩序の再考をテーマとして、討論や発表を行っています。私も、ゼミナールの最近の活動では、アメリカの政党政治や外交をテーマとしたグループ発表をさせていただき、充実した活動をさせてもらいました。

●海外建築ボランティアサークルの所属

サークル活動では、海外建築ボランティアサークルであるWHABITATに所属しており、これはHABITATという建築ボランティア団体の大学支部で、主に発展途上国に出向き、依頼主に家を建てるという活動を行っております。私自身も今年の２月にインドネシアのメダンというところに２週間ほど行き、充実した経験を積むことが出来ました。

私は海外経験がさほどなく、東南アジアということもあり、期待に胸を膨らませ現地に向かいました。現地は平均気温28度くらいで、気候における日本とのギャップの中、昼間は炎天下の中、作業に従事することとなりました。現地であるメダンは飼犬らしき犬達が自由に闊歩し、道路はバイクと車が砂埃を上げながらごちゃごちゃに入り混じり、様々な露店などがありました。

インドネシアにて

ついた先のホテル、ジャンガハウスというのですが、ここの人たちは皆親切で、私は拙い英語をなんとか使ってコミュニケーションを取り合い、笑顔が絶えませんでした。

また、インドネシアでは地域によるとも思われますが、熱帯的な気候だからでしょうか、基本的に陽気で明るく親切な人達が多い印象でした。道に迷った時は、向こうから親切に道を教えてくれたり、民家の近くを通れば日本語での挨拶が飛び交うなど、経済的な豊かさだけが全てではないことを彼ら自身が物語っていました。

●インドネシアで異文化交流を

しかし、２週間程の滞在において、都市部のショッピングモールに出かける機会がありました。そこでは、日本と比べてもさほど遜色が無いほどの文化レベルで、ホテル周辺の人々とはまるで雰囲気が違うようで、そこのインドネシア人には日本人に似た雰囲気を感じました。発展途上国内でもここまで、格差が広がっていることや文化レベルで人間性がどれほどに幅広くなっていくのか、非常に興味深い経験になりました。

そして、作業現場では家の依頼主であるホームオーナーさんや現地の大工の人々やサークルの友人たちと協力して作業しました。朝６時に目を覚まし、帰りは夜の18時といったように朝から晩まで、土を掘ったり、セメントを混ぜあわせて作ったり、ベンディン

インドネシア・メダンの作業現場

グワイヤーによって柱を構築したり、レンガを組み立てたりと、様々な土木作業を経験出来ました。

現地の人々と共に汗を流し、体がつらい時期もありましたが、毎日が充実していました。休憩時間には、HABITAT のインドネシア支部のスタッフの人と会話したり、ホームオーナーさんとインドネシア語と日本語が書かれた指差し会話帳で意思の疎通を図ったりと異文化交流に勤しみました。

●ボランティア活動の難しさを痛感

こうしたボランティア活動で感じたことは大学生にはまだまだ知識も経験も乏しく、真に人のためになるようなことをするのは難しいことであるということです。私達が行ったボランティアも所詮は子供が大人の力を借りて初めて出来たと言っても過言ではなく、そのボランティア自体がどれだけ人々のためになったかなど疑問が残ることもあります。

たしかに、依頼主であるホームオーナーさんたちはインタビューで感謝を述べていらっしゃいましたが、それが現実にどうその人たちの未来へプラスになるか、マイナスになるかもわかりません。

大切なことは、ボランティアであれなんであれ、それをする自分と受け入れ側である人たちと、経験を昇華させ、自分の力の糧とし、将来の道へと繋げることだと思います。大学生という時代はどれだけ多くの経験を積めるか、そういったことが将来的に大事だと感じました。

こうした大学生という時代に様々な経験ができることは偏に皆様の、社会科学部奨学金に関わる方々のご助力あってのことだと思います。奨学生であることの自覚と責任を持ちながら、それに恥じない行動を心がけて、皆様の御恩に報いたいと思っております。

最後に、この場を借りて、早稲田大学社会科学部に関わる皆様のさらなる発展とご活躍を心からお祈りするとともに、重ねてこの奨学金を頂いたことへのお礼を述べさせていただきます。

誠にありがとうございました。

2014稲門祭奨学金記念品販売のご案内

稲門祭記念品の申込予約受付中です。
記念品は社学稲門会のホームページより「稲門祭」のページにアクセスできます。

社学稲門会 http://syagakutomonkai.com/

●申込予約手順

①稲門祭のホームページより記念品を確認し、「申込書」をダウンロードする。
②氏名、住所、所属稲門会（社学稲門会）、品名（番）、数量、合計金額等記入
③毎月開催の「二水会」会場にて直接申込も受け付けておりますので、出席者は随時ご利用ください。
売り上げ実績が社学稲門会としてカウントされます。
④支払方法：二水会でも支払可能です。
銀行振込：早稲田大学社学二水会　代表　阿川功
三井住友銀行新宿通支店（661）（普通）9218220
入力例：早稲田太郎　記念品代
⑤引き渡し方法：二水会時、または有料にて宅配。
いずれの方法を希望か明記すること。

早稲田大学社会科学部卒業生奨学基金の詳細

1

【趣旨と内容】

「社会科学部卒業生奨学基金」は、経済的支援を必要としていて、かつ向学心に燃えている後輩に対して、社会科学部を巣立ったOB・OG自らの手で、「支援」していこうという趣旨で、平成6年の「ホームカミングデー」に招待された社会科学部第1期生有志により設立されました。

以降、「ホームカミングデー」を迎えた代々（2～20期・30期）の有志によって募金活動（同期生への呼びかけ）が引き継がれ、現在に至っています。募金は毎年、大学に寄付され、募金総額が1700万円を超えた平成10年より、利子運用による奨学金の給付がスタートしています。

【募金総額】 平成26年3月末現在

62,818,622円（運用利息を含む）

【寄付件数】

1,626件

【奨学生】

現在までの奨学生は38名

【給付対象】

・早稲田大学社会科学部に在学する学生
・奨学金の給付を必要とする在学生の中から、大学規定に基づき社会科学部が選考して決定

【支給金額】

年間40万円（本年度の給付予定者は4名）

【募金金額】

一口1万円以上ですが、多寡は問いません。

【募金目標】

500万円（本年度）

【募金口座】

〈銀行〉三井住友銀行　高田馬場支店
普通預金　口座番号　１６８６３８４
社会科学部卒業生奨学基金代表　阿川功
〈郵便振替〉00110-0-579115
社会科学部卒業生奨学基金

社会科学部卒業生奨学基金
のホームページ
http://syagakutomonkai.com

【受付期間】

通年、ホームカミングデー当日。「社会科学部合同クラス会」会場でも受付。なお、同席上で今年度の贈呈式を行う関係上、1次締切の10月10日（金）までに手続きをお願いできれば幸いです。

【早稲田学報芳名掲載】

寄付者は早稲田学報寄付者芳名欄に掲載されます。匿名希望の場合は、お振り込み時に匿名ご希望を明記してください。

【寄付金について】

寄付をして下さった方には、早稲田大学よりお礼状とともに、「領収書」および「特定公益増進法人証明書（写）」が送付されます。これらを添付して確定申告をすると、個人の場合は1万円を超える金額について寄付金控除が受けられます。また、法人の場合、寄付金限度額の範囲で損金算入が認められます。

早稲田大学社会科学部卒業生奨学基金の詳細 2

◆募金実績内訳表【校友・教職員・一般・団体・法人】

年　　度	寄付金額	寄付件数	奨学生
1994年度　第 1 期(昭和45年卒)	3,785,656	81件	
1995年度　第 2 期(昭和46年卒)	2,559,000	86件	
1996年度　第 3 期(昭和47年卒)	1,530,000	42件	
1997年度　第 4 期(昭和48年卒)	4,675,000	85件	
1998年度　第 5 期(昭和49年卒)	2,168,000	78件	松尾亜紀さん
1999年度　第 6 期(昭和50年卒)	3,207,000	70件	浅野桃子さん
2000年度　第 7 期(昭和51年卒)	2,371,000	74件	米倉達也さん、他 1 名
2001年度　第 8 期(昭和52年卒)	2,540,000	87件	松田阿良、木村和彦さん
2002年度　第 9 期(昭和53年卒)	2,396,111	65件	上島賢士、松崎　雅さん
2003年度　第 10 期(昭和54年卒)	3,025,000	89件	高村武之、吉本妙子さん
2004年度第 1･11 期(昭和45年卒と昭和55年卒)	3,134,000	143件	石川裕子、東角邦昭さん
2005年度第 2･12 期(昭和46年卒と昭和56年卒)	3,472,460	91件	石田理紗、中里浩之さん
2006年度第 3･13 期(昭和47年卒と昭和57年卒)	2,065,000	75件	井上素子、松岡勇志さん
2007年度第 4･14 期(昭和48年卒と昭和58年卒)	2,900,500	96件	渡部　香、加藤和弥さん
2008年度第 5･15 期(昭和49年卒と昭和59年卒)	2,322,500	77件	佐藤史佳さん、金木雄太さん 洪宇美嘉さん
2009年度第 6･16 期(昭和50年卒と昭和60年卒)	2,337,000	78件	津布久賢三郎さん 親泊友子さん、岡村倫太郎さん
2010年度第 7･17･27期 (昭和51年卒と昭和61年卒と平成8年卒)	5,063,000	78件	丸岡利栄子さん(大学院2年) 高田二菜さん、貴島健太さん
2011年度第 8･18･28期 (昭和52年卒と昭和62年卒と平成9年卒)	2,887,000	70件	横田　梓さん、相川　翼さん 渡部早希さん(4年)
2012年度第 9･19･29期 (昭和53年卒と昭和63年卒と平成10年卒)	3,224,415	84件	大島由雅さん(4年)、島田麻里さん(4年) 森下　俊さん(3年)、平　貴衣さん(3年)
2013年度第 10･20･30期 (昭和54年卒と平成元年卒と平成11年卒)	4,173,102	77件	神戸　萌さん(3年)、中山光流さん(2年) 櫻井温子さん(1年)、冨田　到さん(1年)
累　　計	59,835,744	1,626件	以上、38名

【巣立った奨学生は、38 名に】

1998 年に初めて松尾亜紀さんへ奨学金 30 万円が給付されてから、現在までの奨学生は、すでに 38 名。例年、「ホームカミングデー＆稲門祭」の式典に続く「社会科学部合同クラス会」の場で、本学部長より当該年度奨学生に対して、奨学金の贈呈式が行われています。

昨年の奨学基金贈呈式で挨拶する2012～2013年度奨学生

お問い合わせは

社会科学部卒業生奨学基金代表（第 1 期生）　〒 160-0022 東京都新宿区新宿 3-11-6 エクレ新宿 11 階
社会科学部稲門会事務局　阿川グループ　阿川功
Te.03-5368-2245　FAX.03-5368-2246

社学 OB・OG のホームページ http://syagakutomonkai.com

ゼミリレー⑯
辻　義昌ゼミ

小林 俊哉
（昭和 59 年卒）

学際連携の先駆け―社学の学部・大学院で辻義昌先生に学んだこと

●学際連携の先駆け―社学設立50周年を祝して

1966 年に設立された社会科学部が、いよいよ 50 周年を迎えるとのことで、大変嬉しく思います。

政治学、経済学、法学、社会学等の「社会科学の総合」を旗印に出発した社会科学部に学んだ私は、その後シンクタンクや大学での教育・研究の場面で大いにその恩恵を受けたと今は実感しています。20 世紀後半以降、地球環境問題や資源エネルギー問題、少子高齢化問題等、単一の学問分野だけでは対応しきれない複雑で大規模な問題が続出するようになりました。

そうした問題に取り組むためには文系・理系の複数の学問分野の専門家が協働することなしには――こうした協働は学際連携と今日では呼ばれています――問題の全容の把握すら困難となっています。このような認識は 21 世紀の今日では常識となっていますが、私が社学で学んでいた 1970 ～ 80 年代には（理念としては認識されつつも）余り重視されていたとは言えなかったと思います。

そういう意味では社学はほぼ 30 年先の未来を見通して設立されたと言えるでしょう。そのような社学で学ぶことが出来た私は大きな学恩を先生方や諸先輩・学友から受けたと実感しています。

●辻先生との出会い―トロツキーとブハーリン

私は、1979 年（昭和 54 年）4 月に社学に入学し、1 年留年して 1984 年 3 月に卒業しました。ゼミは辻義昌先生の「社会政策学研究」に在籍しました。

卒業後、広告会社に 8 年勤務し、その後、科学技術庁（現文部科学省）所管公益法人のシンクタンクに約 10 年勤務しました。このシンクタンクに勤務した期間に社会人学生として、1994 年に設立された社学の大学院社会科学研究科修士課程に学びました。ですから合計で 7 年間社学に学んだことになります。大学院も辻先生のゼミ「比較経済・労働問題論」のゼミに在籍しました。

初めて辻先生のお名前に接したのは、学部の 1 年生の時に書店でロシア革命の革命家トロツキーの『戦時共産主義期の経済（トロツキー選集 第 2 期 第 13 巻）』、ブハーリンの『経済学者の手記―新しい経済年度の開始によせて（ブハーリン著作選 2）』（両書とも現在は現代思潮新社刊）の翻訳者名の所に先生のお名前を見かけた時でした。当時私はマルクス主義などの社会思想に大いに関心を持っていた時期ですから、こういう文献を翻訳している先生が社学にいらっしゃるということは大きな驚きでした。

そこで早速、一般教育の経済学の講義を終えられた先生を教室の外でつかまえて、先生のゼミに入りたい旨をお願いしました。すると辻先生は、ゼミは 3 年生からだけど、一般教育の「社会科学演習」は 2 年生でも受講できるので良ければ受講して下さいとおっしゃいました。そこで 2 年に進級すると早速社会科学演習を受講することとしました。

その後、間にブランクはありますが、1997 年 3 月の修士課程修了まで合計 6 年にわたって先生の御指導を受けることとなりました。

●社会科学演習の思い出と辻先生に学んだこと

社会科学演習で最初に私が担当したテキストはケインジアンとして有名なイギリスのロイ・ハロッドの『社会科学とは何か』（清水幾太郎訳 岩波新書 1975 年）でした。もう 1 名のゼミ生 A 君と一緒に同書を読み、内容を要約し、1 枚のレジュメにまとめて発表し、内容

1980年の晩秋にイギリスに出発する辻先生の壮行会の写真です。
最前列の左から2人目が辻先生で前から3列目右側が私です。

についてディスカッションするというものでした。

先ずは同書を読み、その後A君の京王線明大前駅近くの下宿で内容について話し合いました。正直な所、良く分からなかった個所も多かったので、ああじゃない、こうじゃないと議論になり、いつの間にか朝になっていました。何とかレジュメは出来上がりゼミで発表しました。

しかし、辻先生からは、テキストを読んでいないゼミ生が私たちの発表を聞き、レジュメを読んで内容を理解できるようでなければならないが、そのようなレベルには達していないというお叱りを受け、がっかりした記憶があります。

その後、テキストとして、『日本の思想』（丸山真男 岩波新書 1961 年)、『自由への挑戦―行動工学入門』（バラス・フレデリック・スキナー 番町書房 1972 年）などを読みました。私はトロツキーとかブハーリンとかを読むことを期待していたのですが、それはありませんでしたので正直がっかりしていたのですが、上記の『日本の思想』を読んだあたりで、なぜ辻先生がそうした文献を読むように指導されたのかということが何となく分かってきました。

当時私は一つの型に嵌った思考に囚われていましたから、物事の考え方、見方について多様な観点があるということをお示しになったのだと今となっては理解しています。辻先生が私におっしゃったことは、何年も経ってから、先生の意図はこういうことだったのかということが分かったり、なぜこの本を読みなさいとおっしゃったかの理由が分かったりということが実に多かったのです。

なかでも私が 1983 年 11 月 18 日に 23 歳の誕生日を迎えた日、私に「小林君、姫岡玲治（青木昌彦スタンフォード大学名誉教授の学生時代の筆名）は今の君の年にトロツキーの『永続革命論』をフランス語版から和訳して日本社会に紹介したのだよ。今の君にそういうことが出来るかな」とおっしゃったことは今でもよく覚えています。このお言葉には本当に参りました。

辻先生は 1980 年末から 1 年間、ブリティッシュ・カウンシルのプログラムでイギリスに派遣されることになったため、私が 3 年生に進級し、正規のゼミ生になった最初の 1 年間は代理講師の、当時武蔵大学助教授であった仁田道夫先生（その後、東京大学教授を経て現在は国士舘大学教授）のご指導を受けました。仁田先生は私の関心を聞かれると直ぐにテキストとして『五つの共産主義』(ジル・マルチネ著 岩波新書 1972 年)を指定して下さいました。この本は社会民主主義の観点から 1970 年代の社会主義諸国の現実を読み解くという、当時の私には全く無かった観点からの社会主義論のテキストで、私の視野を広げて下さいました。

私が 20 代の初めに辻先生から学んだことは、要約しますと以下のようなことになると思います。

1）世の中で一般的に言われていること（もしくは自分の漠然と思いこんでいること）が、本当にその通りの現実であるかを、資料やデータにあたって調べてみる必要がある。

2）1）の作業をしてみると、「現実」と世の中で一般的に言われていること（もしくは自分が漠然と思い

1984年3月25日、学部の卒業式で、旧14号館の辻先生の研究室で撮影。
前列左から2人目が辻先生で、先生の左隣が私です。

こんでいること）が違っていることがしばしばある。

3）そのような違い（乖離）がなぜ生ずるのかを、自分なりに考察する必要があること。

以上の３点です。

例えば日本的経営の特徴であった終身雇用制度は、あたかも企業が従業員に施す温情のような見方が社会的に多くみられ、経済合理性に反するような指摘が多くなされてきたが本当にそうなのだろうか。

実は背後には人事管理における経済合理性が潜んでいるのではないだろうかといった事例や、旧ソ連の全人民所有の理念に基づく経済社会システムは、経済合理性と矛盾することから、どう考えても持続可能ではないはずなのに 70 年以上続いたのはなぜかといった点を考える機会を頂きました。

●学生自治会運動への参加

私が第一志望を社学に決めた理由をお話しします。

1970 年代後半の早稲田は４年連続学費値上げに対する学生の反対運動が活発化していました。確か 1979 年１月８日（だったと思います）の朝日新聞に社学で学生大会が開催され学費値上げ反対のストライキが実施されるという記事が掲載されました。

私は高校で生徒会役員を務め、先輩たちが始めた制服自由化運動に参加していたこともあり、元々学生運動全般に関心を持っていました。といいますか、大学生になったら学生運動をするのが当然だと思っていました。そんな私でしたから上記の朝日新聞の記事には大いに感銘を受けたのです。

先ず、当時既に下火になっていた学生運動が活発に行われているということ。そして、多くの学生が参加する学生大会でストライキ決議が挙げられ行動に移されているということに感銘を受けたのです。そして社学に入学すると早速、学生自治会主催の新入生懇談会に参加しました。

私は語学クラスやゼミで討論を積み重ねて行動に移るという地道な大衆的活動が性に合っていたようで、自分でも種々の学内活動に熱中し肝心の勉強はそっちのけという有様でした。

当時の社学学生自治会は革マル派系全学連に所属していました。70 年代後半当時、革マル派は中核派など新左翼同士の内ゲバと呼ばれた党派闘争の真最中でしたから、「おまえもいつ殺されるか分からないぞ！」と父から警告されました。その少し前に父の知り合いの方のお子さんが実際に襲撃されてお亡くなりになっていたので尚更でした。でも私は途中でやめることができませんでした。

1980 年（昭和 55 年）、私が２年生の時には、商学部で入試漏えい事件が起こり、入試問題を売買していたとされた反社会集団への抗議運動として実施された「オールワセダ大行進」に参加しました。

1981 年（昭和 56 年）の３年生の時には当時世界的に盛り上がっていた反核運動に参加し、核兵器を搭載しているという疑惑がもたれていた米空母ミッドウェイの横須賀来航に反対して大隈銅像前で 48 時間のハンガーストライキを学友たちと決行しました。山口大学で被爆２世の皆さんがハンストで立ち上がったことに呼応したものです。この時は大隈銅像前に数百人が

1980年5月、入試漏えい事件に抗議したオールワセダ大行進
左の写真は大隈銅像下でアジ演説をする私。右の写真は旧14号館前で学友諸氏と記念撮影したものです。

集結し、市ヶ谷の自衛隊東部方面総監部までのデモ行進が行われました。

このハンストの最中に、当時辻先生の専門科目「社会政策」の代理講師を担当された雇用促進事業団職業研究所（当時 現独立行政法人 労働政策研究・研修機構）の亀山直幸先生に、ハンストのため授業に出られない旨お伝えした所、「最後まで頑張れ」という励ましのお言葉を頂いたことは今でも忘れることができません。

このハンストについて、当時イギリスにおられた辻先生がご存知だったので、驚いた記憶があります。この件の新聞報道を読まれた方が手紙で先生にお知らせになったということを後で先生から伺いました。

☆14版☆ (22)

"ワセダの心意気"健在

核に抗議、4人ハンスト 一橋、津田塾大でも

読売新聞、朝刊22面
1981年5月28日に掲載されたハンストの記事

●大学院で学ぶ

学部を卒業後、8年間広告会社の営業として働いたのち、ゼミの先輩の紹介で前記のシンクタンクに転職しました。シンクタンクの仕事は調査と研究ですから、もっと勉強しなければならないと思いました。

ちょうどその時に社学の大学院が設置されたのです。私は早速、辻先生に相談して修士課程を受験させて頂きました。1回目は英語の試験で失敗し翌年やっと入学することができました。この時、辻先生から入試の英語の試験について、「1問目は書けていたけど2問目は全くできていなかったね。2問目を出題したのは私だけど、こんなんじゃ全くダメですから」と、またお叱りを受けました。

そこで、私は学部の時の不勉強の償いのためにもと発奮して頑張りました。おかげさまで修了時に総代に選んで頂くことができました。

この後、2001年10月から2004年3月まで辻先生が国内研究でご不在の間、ゼミと「社会政策」、「外国書研究」の代理講師を私小林が勤めさせて頂いたことも、たいへん光栄に感じています。この時の経験も詳しくご紹介したいのですが、既に私に与えられた紙数が尽きてしまいました。

1979年4月に学部に入学してから35年が経ちますが、本当に「光陰矢の如し」です。「集まり散じて人は変われど、仰ぐは同じき理想の光」は「都の西北」の一節ですが、この年（本年で満54歳になります）になって、本当にこの歌詞が心に沁みるようになりました。

社学稲門会インフォメーション

平成26年度「社会科学部稲門会」スケジュール予定表

月例会等	曜日	タイトル	内　容	主管委員会
1月8日	水	１月定例会	合同クラス会幹事選出依頼 第二回総会開催時期の決定 来年度予算申請 奨学金大使の選定	事業員会 事務局 財務委員会 奨学金委員会
1月29日	水	合同クラス会幹事顔合わせ会	趣旨説明・昨年度活動報告・今年度実施方針の意見聴取・歓迎親睦会	事業委員会 事務局
2月5日	水	シャガールの会キックオフ	今後の活動方針決定	組織委員会
2月12日	水	２月定例会	合同クラス会実行委員長選定 第二回総会 開催場所の決定 今年の学部卒業生向け パンフレット内容報告	事業委員会 事業委員会 広報委員会
2月24日	月	学部打合せ	50周年記念行事案提出	50周年記念準備委員会
3月8日	土	校友会会議	第一回各種稲門会合同会議出席	事務局
3月12日	水	３月定例会	来年度予算案及び決算見込報告 第二回総会当日役割分担決定	財務委員会 事業委員会
4月9日	水	４月定例会	第二回総会案内発送 今年度稲門祭派遣スタッフ選出	事務局 組織委員会
4月23日	火	校友会打合せ	社学稲門会活動内容の説明	執行部 各委員会委員長・副委員長
5月14日	水	５月定例会	第二回総会準備最終確認 招待者確認・会場関連・式典関連 決算結果及び監査報告	事務局・事業委員会・広報委員会 財務委員会
5月17日	土	第二回総会	式典（14号館801会議室）・懇親会（大隈タワー西北の風）	事務局・各委員会
6月11日	水	６月定例会	第二回総会の総括 合同クラス会準備進捗報告 50周年記念準備進捗報告	事務局・各委員会 事業委員会 50周年記念準備員会
7月9日	水	７月定例会	合同クラス会 式次第・案内状内容決定 会報進捗報告	事業委員会 広報委員会
7月22日	火	学部打合せ	50周年記念行事計画打合せ	50周年記念準備委員会
8月20日	水	８月定例会	合同クラス会案内状関連最終確認	事務局
8月23日	土	第一回発送作業	合同クラス会案内状 封筒詰め・住所ラベル貼り・発送作業	事務局
8月27日	水	第二回発送作業	合同クラス会案内状 封筒詰め・住所ラベル貼り・発送作業	事務局
8月下旬		会報発刊	第17号会報WEB発刊	広報委員会
9月10日	水	９月定例会	合同クラス会当日役割分担確認 招待者・式典・懇親会 稲門祭模擬店出店準備報告	事務局・事業委員会・広報委員会 事業委員会
9月27日	土	バスツアー	「大人の遠足」手作りビール体験バスツアー	事業委員会
10月8日	水	10月定例会	合同クラス会の最終確認 稲門祭模擬店最終確認	事務局・各委員会 事業委員会
10月19日	日	第21回合同クラス会	式典・懇親会（14号館801会議室） 稲門祭模擬店出店	事務局・各委員会 事業委員会
11月12日	水	11月定例会	合同クラス会総括 稲門祭模擬店報告	事務局・各委員会 事業委員会
12月10日	水	12月定例会	次年度活動計画策定	事務局・各委員会

2014年度第21回合同クラス会の案内

ようこそ、心のふるさと早稲田大学へ！

10月19日（日）ホームカミングデーの当日、旧友や恩師が集う社会科学部合同クラス会を14号館で開催します。久々に早稲田大学に足を運ぶ、卒後45年（昭和45年卒）、卒後35年（昭和55年卒）、卒後25年（平成2年卒）、卒後15年（平成12年卒）の皆様を温かくお迎えするのは、皆様と同期のスタッフ及び社会科学部稲門会の仲間達です。

フェイスブックの普及により、音信のとれなくなった友人を探すことは格段にやさしくなりました。ホームカミングデーは またと無い機会です。これをきっかけに、ご学友を探してみてください。そして合同クラス会参加を呼びかけてみてください。遠くにいる友人や音信のとれなくなった友人たちと、久々に旧交を温めることはとても楽しいことです。

合同クラス会には 社会科学部から学部長のご臨席を賜り、『社会科学部卒業生奨学基金』の贈呈式を行います。当年度奨学金を授与される学生も参加します。

「合同クラス会」は、お一人でも、ご家族同伴でも参加いただけます。旧友との語らい、世代を超えた新しい出会い、記念撮影、校歌斉唱など、「至福の時」を皆様にご提供します。きっと心に残る1日となることでしょう。

当日の飛び入り参加も大いに歓迎ですが、料理の準備もございます。同封のはがきに出欠を書いてご投函ください。皆様との良い出会いを楽しみにしています。

社会科学部稲門会

2014年合同クラス会実行委員一同

S45・S55年・H2年・H12年卒 社学合同クラス会実行委員

昭和45年（1970年）卒業1期実行委員	
実行委員	石井達久、中本零時、田口紀城
実行委員	竹内正右、栃倉　亨、馬場貞夫
昭和55（1980年）卒業11期実行委員	
実行委員長	林　和明
実行委員	牛島　亨、向山禎彦、青柳勝彦
平成2年（1990年）卒業21期実行委員	
実行委員	和泉明宏、南雲靖夫、白土健司
平成12年（2000年）卒業31期実行委員	
実行委員	矢島健生、米山卓洋

上段：左から向山、和泉、南雲、青柳氏
下段：左から牛島、林、田口氏

連絡先・問い合わせ先

●事務局
社会科学部卒業生奨学基金代表　社会科学部稲門会事務局　阿川グループ　阿川功
〒160-0022　新宿区新宿3-11-6　エクレ新宿11階　TEL.03-5368-2245　FAX.03-5368-2246

●社会科学部稲門会のホームページ
http://syagakutomonkai.com

社会科学部稲門会「シャガールの会」報告記

これまでの活動 そして今後の予定と会員募集

シャガールの会は、社学稲門会のガールズグループです。

2014年の2月5日（水）に恵比寿のカジュアルフレンチレストランでキックオフミーティングを行いました。個性的で魅力的な方々が集まり、お喋りが弾み、閉店時間に気づかないほどでした。

そこで話し合ったことは、会費は無し、会合は不定期にする、会合での飲食代は原則割勘にする、メールグループを作りコミュニケーションを取り合う、などを確認しました。

3月7日（金）シャガールの会宛にパナソニックミュージアムの鑑賞券を頂き、希望者を募り鑑賞会とランチをしました。題目は『メイド・イン・ジャパン南部鉄器』でした。

5月にシャガールの会の旗を作って頂きました。

5月17日（土）社学稲門会第2回総会にてお披露目をしました。

懇親会では社会科学部学部長の畑先生と一緒にシャガールの会の旗を囲み記念写真をとりました。写真を掲載しましたので是非ご覧ください。

6月6日（金）再びパナソニック汐留ミュージアムにて鑑賞会とランチをしました。題目は『フランス印象派の陶磁器』でした。

この他、毎月の定例会の後にシャガールの会分科会を行い、今後の楽しい企画など作戦会議をしています。

シャガールの会の方々はほとんどが忙しく働いている女性ですので、会合がランチだと集まりにくいなどの意見もあり、久しぶりに夜の会合を企画しました。

10月3日（金）19時～高田馬場「夜来香」。早稲田在住のシャガール推薦のお店です。リーズナブルで美味しいとのこと。たまにはワイワイと中華料理で意見交換をしましょう！

シャガールの会では会員を募集しています。興味のある方は、下記のメールアドレスまでアクセスをお願いします。会員希望の方は、お名前、メールアドレス、卒年をご送付ください。

女性の力で、より魅力的な社学稲門会を一緒に作っていきましょう。

シャガールの会　sha-girl@syagakutomonkai.com

シャガールの会発起人・馬場孝子（1977年卒）

旧14号館、旧13号館、旧12号館との連絡通路の写真を探しています

社会科学部は2016年に学部創設50年を迎えます。
学部では50周年を記念して「50年史編纂委員会」を立ち上げ各種資料収集をしております。
学部より社学稲門会へ14号館ならびに旧13号館と旧12号館との連絡通路の写真提供の依頼がありました。
ご提供いただいた写真は選考の上「50年史」や学部新HPの「思い出のアルバム」コーナーに掲載されます。
旧14号館は平成6年頃まで使用されておりました。旧14号館の写真をお持ちの方は是非、ご協力ください。
つきましては、お名前、入学年度、連絡先住所・電話番号、写真の説明文（いつごろのものか）をご記入の上、写真の返還の必要がある場合は、その旨を明記してください。

【問い合わせ先・送付先】〒160-0002　東京都新宿区新宿3-11-6　エレク新宿11F
阿川グループ　阿川功　気付「社学創立50周年準備委員会」宛

「奨学基金委員会」だより

奨学金大使

緒方桃子（2年）・荒井悠希（2年）

初めての奨学金大使を無事務め終えて

5月17日に行われた第2回社学稲門会総会に於ける募金活動の結果をご報告いたします。

まず、総会会場では57,000円、懇親会会場の「西北の風」では32,000円と、計89,000円の募金がありました。

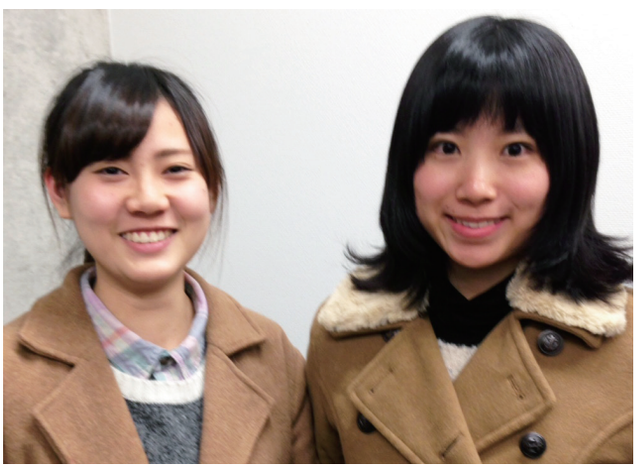
募金活動に不慣れな私たちを温かくサポートして頂きました先輩の方々のご協力に深く感謝致します。今後とも変わらぬご支援のほど宜しくお願いいたします。

●貴重な経験ができて感謝を…

緒方　奨学金大使として初めての活動でしたが、先輩方のお力添えのお陰で無事に仕事を終えることが出来ました。ありがとうございました。

また、先輩方と活動をさせていただくなかで、多くのことを学ばせていただきました。このような機会を与えていただきとても光栄です。　今後とも社学稲門会のみなさまと活動させていただくのを楽しみにしております。宜しくお願いいたします。

荒井　初めての募金活動でとても緊張しましたが、先輩方が温かく受け入れて下さったお陰で楽しく活動をすることが出来ました。快く募金をしてくださった方々、優しく声をかけて下さった方々、本当にありがとうございました。



荒井 悠希さん（左）、緒方 桃子さん（右）

まだまだ未熟ではありますが、これから先輩方のご期待に沿えるよう、努力していこうと思っております。

今後とも私たち奨学金大使を宜しくお願い致します。

「社会科学部稲門会」会費納入のお願い

入会手続きと同時に会費の納入をお願い申し上げます。

会費：年間3,000円

別途、任意で本会への寄付金一口1,000円（二口以上の可）を承ります。

ご寄付いただいた会員のご芳名を会報等に掲載いたします。匿名希望の方は匿名希望とご明記ください。

会費納入方法（振込先）

みずほ銀行　新橋中央支店　普通口座 2231241　口座名　社会科学部稲門会

ゆうちょ銀行　記号 10120　番号 73833861　社会科学部稲門会

三井住友銀行　新宿通支店　普通口座 9218220　口座名　早稲田大学社学二水会　代表　阿川功

（振込時記入例：早稲田桜子　会費と寄付　匿名希望など）

第２回社学稲門会総会レポート

社学発展のため50周年に向け更なる結束を誓って！

米津　昭（昭和 57 年卒）

平成 26 年度の第 2 回社会科学部稲門会総会が 5 月 17 日、当稲門会の定例会の場所でもある早大 14 号館 801 号室で開催されました。

冒頭、阿川会長からは稲門会組織化に伴う様々な支援への御礼と稲門会活動を通じて学部とのさらなる連携協力をしていく旨の挨拶がありました。続いて畑社会科学学術院長からは早大の近況や創設 50 周年に向けた学部としての取り組み、友金校友会事務局長からは母校に一致団結した校友の協力が不可欠である事等、来賓のお二人から当稲門会への強い期待を込められたお言葉を頂戴致しました。

また、今回が２回目となる総会には、学部の恩師である照屋先生、速川先生、新沼先生と日々学部との橋渡しでご尽力をいただいている斉藤学部事務長を含めた来賓 6 名、校友 61 名、奨学生等の現役学生 11 名、総勢 78 名の出席を得ました。

総会は会の趣旨である昨年度の会計報告、監査報告、本年度予算案が承認された後に、組織・財務・事業・広報・奨学金の各委員会及び事務局から現状報告と活動計画の説明が行われ、最後に社会科学部 50 周年記念事業推進について準備委員会からの報告を行い、議事は終了致しました。

総会後は大隈講堂前にて集合写真を撮影後、会場を「西北の風」に場所を替え、引き続き懇親会に移りました。

左から清水副総長、畑学術院長、菊池萌水さん、阿川稲門会長

雰囲気も変わり伊東幹事長の挨拶により開会し、来賓の清水早大副総長に祝辞をいただいた後に、各分野で活躍されている社学校友への花束贈呈が行われました。今回は洲之内高男氏（かつしか文学賞優秀賞受賞）、倉田秀道氏（スキー部監督）、菊池萌水氏（ソチ五輪日本代表選手）の三氏に贈られ、歓談では各氏にインタビューを行う企画もあり、貴重な現場の声をお聞きすることができました。詳しくはインタビュアーから別途レポートさせていただきます。

懇親会においては多士済々の方々との交流を深める有意義な機会ともなり、縦と横の繋がりがより深まったことは言うまでもありません。

名残惜しい時間もあっと言う間に過ぎ、会の締めは社学応援部 OB による指揮のもと、「紺碧の空」「早稲田の栄光」「校歌」を神宮から駆け付けた現役チア共々全員で熱唱し、和やかに散会となりました。

今後、我々の次なる課題は社学 50 周年に向けての活動となりますが、当稲門会が今日に至るのは学部の方々や校友の皆様の努力のお蔭であることをあらためて再認識し、さらに学部の発展に寄与することを皆で共有した次第です。

懇親会インタビュー

懇親会に花を添えた各分野で活躍する現役・OBの登場！

関根 健児（平成 16 年卒）

懇親会では、様々な分野で活躍されている社学ＯＢ＆現役社学生の３名に対し、花束贈呈とインタビューを行いました。

●「かつしか文学優秀賞」洲之内タカさん

１人目は、1981（昭和 56）年卒で、2014 年３月に「かつしか文学賞優秀賞」を受賞された洲之内（すのうち）高男さん（ペンネームは、洲之内タカさん）。

洲之内さんへの花束贈呈は、出身校である神奈川県立大磯高校の後輩にあたり、当稲門会の監査を務める矢島健生さん（2000 年＝平成 12 年卒）から行われ、さらに二人で熱い抱擁も交わされました。

インタビューでは、洲之内さんから、大学時代の思い出として、所属していた大畑弥七先生のゼミのことがあげられ、大畑先生に大変お世話になったとのエピソードが紹介されました。当日の懇親会には、大畑先生の元ゼミ生も多数参加しており、喝采があがりました。また、「かつしか文学賞」の受賞作である『ドアの向こう』を執筆するに至ったきっかけやその完成までに大きな苦労があったこと、友人のかけがえのない協力があってやっと完成に至ったこと（その御友人も懇親会に御参加いただきました）などをお話しいただきました。

改めて社学校友の多様性を感じさせてくれた洲之内さんは、次作の執筆に向けて準備中とのことで、今後もさらなる活躍が期待されます。

●早稲田大学スキー部監督・倉田秀道さん

２人目は、1984（昭和 59）年卒で、1999 年から早稲田大学スキー部助監督となり、2003 年に同部監督に就任された倉田秀道さん。

倉田さんには、同じ 1984 年卒の同期で、当稲門会内で発足した「シャガールの会」にも所属する井上明美さんから、花束が贈呈されました。

荻原健司・次晴選手など有名選手を輩出しながら長らく栄光から遠のいていた早稲田スキー部。倉田さんは、監督に就任してから、熱心なスカウト活動などを続け、部員数も 40 名に急増、2007 年には早稲田大学を 40 年ぶりの学生王者（大学選手権優勝）に導いたとのこと。今年２月のソチオリンピックには、早稲田大学スキー部から、現役部員２名を含む６名もの選手を日本代表として送り込み、銀メダル（ノルディック複合）を獲得した渡部暁斗選手も教え子の一人だったそうです。スキー部の指導や講演会など多忙を極める倉田さんは、当稲門会の例会（早稲田大学にて毎月第２水曜日午後７時から）にも、現役学生を連れて頻繁に参加していただいておりますが、「遠征などで家になかなか帰れない」ほどとのこと。

左から菊池萌水さん、倉田秀道さん、洲之内タカさん

ぜひとも社学校友全員で、倉田さん、そして、早稲田大学スキー部を応援していきたいと思います。

●ソチ五輪ショートトラック代表・菊池萌水さん

３人目は、現役社学生で、ソチオリンピック・ショートトラック（3000 メートルリレー）の日本代表に選ばれた菊池萌水さん。

1984 年卒で「シャガールの会」にも所属の林由紀さんから花束が贈呈されました。

菊池さんは、長野県出身で、お姉さんたちがスケートをして遊ぶのを見て、自然と自身もスケートを始めたそうです。競技と大学生活の両立は、我々には想像もつかないほど大変と思いますが、菊池さんは、「ヨーロッパ地域の研究をするゼミに入っており、ゼミ活動を頑張りたい」とのこと。

菊池さんのこれまでの活躍、そして今後の活躍は、社学ＯＢ・現役生にとって今後の励みになるはずです。

最後に、今後の抱負を尋ねたところ、菊池さんからは「金メダルをとりたい」と力強い言葉があり、懇親会会場の盛り上がりは最高潮に達しました。

SHAGAKU INFORMATION

社学インフォメーション

★本欄は、社学 OG・OB の「インフォメーション」コーナーです。名刺・自社広告・情報提供欄として、あるいは、同窓会の案内、同窓生消息のお願いなど、ご自由に活用ください。

★１口１万円でお願いしますが、この収益金は「社会科学部稲門会活動費」に充填されますので、ふるってご協力・ご出稿くださるよう、お願い申し上げます。

★出稿先：batayan@ss.iij4u.or.jp　川端 宛
★締め切り：「社学稲門会報」第 18 号 / 7月末
★「社学インフォメーション」出稿の振込口座
銀行口座 / 三井住友銀行　新宿通支店
普通口座　9218220
早稲田大学 社学稲門会 代表 阿川功

1975年入学、'79年卒 年次稲門会からのお知らせ

全８学部による年次合同同窓会（54 ら会：ゴジラ会）の次回開催は 2016 年ですが、会員未登録の方は、以下までお知らせください詳細はホームページにてご確認ください。なお、今年の稲門祭には 54 ら会も参加する予定ですので、皆さんお立ち寄りいただきますよう、よろしくお願い致します。

http：//54waseda.blog83.fc2.com/

2012年7月7日（土）リーガロイヤルホテルで行われた第二回総会

清 味 工 房

店長 大塚清美（昭和 55 年卒）
URL：http://kiyomikobo.open365.jp/
E-mail：kiyomikobo@gaea.ocn.ne.jp
「清味工房」は、いい味を追求していきます。味覚はもちろん、清々しい気をお届けしていきたいと考えています。

－しみじみと心に通う贈りもの－

たち吉の創業は宝暦二年（1752年）。
歴史があるから明日がある。
たち吉はいつも新しい生活を考え続けています。

うつわのお店
www.tachikichi.co.jp
お問合せ●TEL.075（255）3507
●メールアドレスe-shop@tachikichi.co.jp

良い商品に親切そえて
たち吉
向山禎彦（昭和55年卒）

1978年次稲門会（http://www.waseda-s53.com）「第12回総会・懇親会」2014年11月22日（土）「永楽倶楽部」

■会費：当日払い
■申し込み・問い合わせ先
事務局：1978年次稲門会事務局　幹事長　西村修一（一文卒）
携帯：090-4368-5842　eメール：nishimura-shu@mta.biglobe.ne.jp

毎月第二水曜日 21：00 ～開催（曜日・会場は変わることがあります）「社学稲門会（二水会）」二次会・会場

早大通り　Italian×Hawaiian Restaurant
ILE・DES・PAIN「イル・デ・パン」
〒162-0041 新宿区早稲田鶴巻町537
TEL.03-3203-8191　FAX.03-3203-6960
http://www.pakufood.com　Email：info@pakufood.com

スカイワード税理士法人

代表社員 根本陽一（1973 年・昭和 48 年卒）
〒 102-0074　東京都千代田区九段南 2 丁目 4 番 4 号
ハリファックス九段ビル 6 階
TEL.03-3230-1435（代）/FAX.03-3230-1492
E-mail：y-nemoto@n-tax.jp
※1969年（昭和44年）入学、フランス語Qクラス・山之内光躬ゼミ（財政学）の方、是非ご連絡ください。

「社会科学部稲門会」御用達
定食 おかあちゃん

住所 〒162-0045 東京都新宿区馬場下町61
東京メトロ東西線早稲田（地下鉄線）駅 徒歩1分
電話 03-3208-4336
※同窓会・パーティ・会食・打合せなどに是非ご利用ください。

阿川グループ（阿川 功 / 社学 1 期生・昭和 45 年卒）

〒 160-0022　東京都新宿区新宿 3-11-6　エクレ新宿 11 階　URL：http：//www.agawa-net.co.j
TEL.03（5368）2245（代）/FAX.03（5368）2246（権利）/E-mail：agawa_gr@agawa-net.co.jp

●業務内容
①不動産登記　売買　抵当権　相続　等
②商業法人登記　設立　役員変更　増資　組織変更　合併　解散　等
③測量表示登記　測量　建物表示・滅失　分筆・合筆・地目変更　等
④企業法務　企業再編（M&A　合併　営業譲渡　会社分割　株式交換・移転）株式公開　株主総会　等
⑤国際法務　帰化　入管　外国法人　等
⑥裁判手続　民事訴訟　非訟　家事裁判　調停　差押　執行　個人破産　民事再生（個人）等
⑦官公署許認可　建設業　運送業　宅建業　外為　等
⑧一般法律事件　契約書　公正証書　任意後見　遺産整理　相談　等
⑨デューディリジェンス　公簿取得　権利関連調査

AGAWA Report Vol.13 2007.3.1

「Agawa Report」Vol.13/2007.3.1

プロフィール（あいうえお順）①出身地、②卒年、③ゼミ・サークル、④仕事、⑤近況、⑥趣味、⑦最近読んだ本

井戸 大介（いど　たいすけ）
①三重県伊勢市出身
② 1999（平成 11）年卒
③大西泰博ゼミ、マイルストーン編集会所属
④卒業後会社員を経て、金沢医科大学医学部第２学年編入学。平成 23 年同大学卒業し、医師国家試験に合格。同大学病院での初期臨床研修終了後、平成 25 年順天堂大学精神医学教室に入局。現在、順天堂大学医学部附属静岡病院メンタルクリニック勤務。
⑤精神科医になって２年目。まだまだ未熟ですが、一人一人の患者さまに誠実かつ真摯に向き合いたいと考え、治療を行っております。
⑥音楽鑑賞（特に東京スカパラダイスオーケストラのファンで、ライブにもよく行きます）
⑦「プロカウンセラーの聞く技術」「精神薬理学エセンシャルズ」

小西　健（こにし　たけし）
①福岡県大牟田市出身
② 1999 年卒
③ゼミ入らず。サークルはバンドサークル HEAVEN
④臨床心理士
⑤ 2010 年から心理相談室開業　関わりと言葉だけで臨床を行う醍醐味を味わっています。
⑥ギター演奏（下手ながらギターを触る時間が多いです）
⑦ジョージ・オーウェル「1984」

斉藤 雄久（さいとう　たかひさ）
① 1962 年１月、東京都葛飾区金町出身
② 1985（昭和 60）年卒
③在学中は音楽同攻会（注：「好」でなく「攻」で正しいです）に所属
④大学卒業後９年の会社勤務後、1994 年 12 月よりハノイに語学留学。ベトナムでは、ハノイ・ホーチミン・ハイフォンの三都市で駐在経験あり。現在ハノイ稲門会渉外担当幹事。
⑤昨年「男はつらいよ」を全作見ましたが、最近はクレージー・キャッツのものと森繁の社長シリーズを楽しんでいます。
⑥映画鑑賞（主に邦画）、音楽鑑賞（クラシック、ジャズ）
⑦「申し訳ない、御社をつぶしたのは私です」（カレン・フェラン著）

関根 健児（せきね　けんじ）
①埼玉県春日部市出身、私立渋谷幕張高校卒業
② 2004（平成 16 年）卒
③吉田和夫ゼミ（民法）、太田章レスリングクラブ
④弁護士
⑤健康のために、ジョギングと、娘２人を連れてラジオ体操に行くことを始めました。
⑦「反省させると犯罪者になります」（新潮新書）（タイトルどおりのショッキングな内容でした）

冨田　到（とみた　いたる）
① 1993 年生まれで、出身は千葉県です。出身高校は江東区の都立東高等学校
②高校卒業後一浪の末、早稲田大学に入学しました。２年生
③ゼミは多賀ゼミに所属しており、国際性の強い事柄について日々勉学に励んでいます。サークルには海外建築ボランティアサークルである WHABITAT に所属しており、今年の２月にはインドネシアに活動しに行ってきました。
④アルバイトは電話交換手など
⑤８月のサークル定期演奏会に向けてピアノの練習中です。
⑥カラオケ、ビリヤード、ラジオ、ピアノ
⑦「宇宙のあいさつ」星新一、「枯木灘」中上健次

中山 光流（なかやま　こうりゅう）
①埼玉県川口市出身
②３年生
③統計解析ゼミ（須子統太先生）、サークル「まっちワークグループ早稲田」（企画ボランティアサークル）
⑤統計解析ゼミにおいて、統計検定二級の取得、また、学部において社会調査士の資格の取得を目指しています。
⑥バスケットボール、カラオケ
⑦『統計学が最強の学問である』西内啓（ダイヤモンド社）、『「社会調査」のウソ　リサーチ・リテラシーのすすめ』谷岡 一郎（文春新書）

馬場 孝子（ばば　たかこ）
①東京都中野区出身、東京都立西高卒
② 1977 年卒
③田中由多加ゼミナール
④大学卒業後、ヤマハ音楽振興会に勤務。
1980 年結婚により退職、専業主婦となる。
2009 年埼玉県庁勤務、2013 年退庁。
⑤最近久しぶりに旅行をした。スペイン８都市６世界遺産を巡り、ラテンの世界に魅了される。
⑥音楽鑑賞
⑦「グローバリゼーションとフードエコノミー」フランク・ビュンテ＆ハンス・ダーフホス、「水は答えを知っている」江本勝

「合同クラス会」参加受付のIT化

今年度の「合同クラス会」の参加受付を IT 化しました。右の QR コードで参加受付フォームに入力、それをデータ化して名簿作成となりますので、以下でご確認ください。
http://syagakutomonkai.com/event/

「社学稲門会・二水会」のホームページ

「社学稲門会・二水会」の HP は以下の通りです。
http://syagakutomonkai.com
ツィッター、フェイスブックもあります。
個人的に会員へお知らせしたい場合はホームページをご利用ください。

編 集 後記

今号の会報では、二つの企画がスタートしました。ひとつは、社会のトップランナーの一人として活躍する卒業生へのインタビュー『がんばれ！同窓生』。特に現役学生や若い人に向けてのメッセージをいただきました。もうひとつは、特集『紆余曲折』。今回は３人の卒業生の一風変わった卒業後の歩みについて寄稿していただきました。ご登場、ご執筆いただいた皆さんに共通して「開拓者精神」を感じ、大いに励まされました。

この会報 17 号が発行される頃には、そろそろ秋の気配。もうすぐホームカミングデー・稲門祭です。たくさんの人が社学稲門会の出店『記念撮影隊』や 14 号館での合同クラス会にお運びいただければと思っています。

広島や四国地方をはじめ、今夏の大雨・水害で被災された地域の復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。 **伏見**（S58 年卒）

■

寄稿下さいました皆様へ改めて深く御礼申し上げます。

多種多様な人材に感嘆致しました。

社会科学部は 2016 年に学部創設 50 周年を迎えます。8 月中旬、14 号館エントランスに 50 周年ロゴマークタペストリーが飾られました。社会科学部稲門会の寄贈です。年内には 学部教職員、現役学生、稲門会のメンバーによる「50 周年記念行事連絡会」（仮称）が発足予定です。

活動報告も順次 HP にて掲載して参ります。

全国、海外の卒業生の皆様 2016 年早稲田へ参集お願い致します。 **藤瀬**（S54 卒）

■

今号もいい意味でアグレッシブな寄稿に感銘を受け、ふと自身の紆余曲折を振り返ってみる機会ともなりました。私事で恐縮ですが、理数系が嫌いで早稲田に来たはずなのに、何故か電機メーカーに入社。海外含めて８箇所を転々とし、多くの失敗を繰り返しながらも果敢に何事も挑戦してきました。

しかし、今ではつい先にリスクや体面を気にしていないだろうか？　少し立ち止まって若い頃を振り返り、自戒の念をもって初心に立ち返ろうと思います。国内経済が 2020 年に向けて走り始めている中、皆さんからの刺激を受け、微力ながら新たな TOKYO の発展に貢献できればと、思いを新たにしました。

米津（S57 卒）

編 集 担 当

川端光明（S54 年卒） 藤瀬敏彦（S54 年卒）
米津　昭（S57 年卒） 伏見英敏（S58 年卒）
夏越英成（S59 年卒） 根田芳夫（S61 年卒）
鎌田伸尚（S61 年卒） 佐藤英明（H18 年卒）

発行　「社学稲門会」編集委員会
発行人 早稲田大学社会科学部稲門会
〒 160-0022
東京都新宿区新宿 3-11-6　エクレ新宿 11F
阿川グループ 阿川功 気付
TEL.03（5368）2245 FAX.03（5368）2246
E-mail：info@syagakutomonkai.com
http://syagakutomonkai.com/

早稲田大学「社学稲門会」ホームページ
http://syagakutomonkai.com/

このホームページでは、「社会科学部卒業生奨学金」制度の概要、基金の収支、活動の近況などを報告しています。また、この運動を支えている OB・OG の会＝二水会（毎月第２水曜日に打ち合わせ）の活動、親睦の報告なども紹介しています。なお、この「会報」のバックナンバーについても、今後掲載を予定していますので、ご期待いただければと思います。ぜひ、一度アクセスしてみてください。

「Facebook,Twitter」もご活用ください！

「社会科学部稲門会・第２回総会」

社会科学部稲門会「第２回総会」記念撮影